

H23 年度科学・技術関係予算概算要求 個別施策ヒアリング

【施策番号 26105：アグリ・ヘルス実用化研究促進プロジェクト（農林水産省）】

- 1 日時：平成 22 年 9 月 21 日（火） 11:30～11:50
- 2 場所：中央合同庁舎 4 号館 2 階 共用第 3 特別会議室
- 3 聴取者：本庶議員、奥村議員、相澤議員、青木議員
外部専門家 3 名（うち若手 0 名）
- 4 説明者：農林水産省 技術会議事務局
小平 均 研究開発官（食の安全、基礎・基盤）
大塚 裕一 研究専門官

5 施策概要

農畜水産物を利用したこれまでにない医薬品・医療用新素材を開発することで、新たな産業・市場の創出を図るとともに、治療技術の高度化等国民生活の質（QOL；Quality of Life）の向上に貢献するため、（1）国民病となっているスギ花粉症に対する医薬品としてのスギ花粉症緩和米等の医薬品作物、（2）カイコ絹糸を用いた人工血管や牛等の動物由来の原料を用いた皮膚再生用素材といった医療用新素材等について、実用化に向けた安全性・有効性の評価試験等を実施する。

6 質疑応答模様

【本庶議員】

今年からスタートしたプロジェクトということで、まだ成果というところまでは行っていないと思うが、重要なのは取り組みの仕方。実施部隊がどういう形になっているのか？農と医を連携させるという話だが、具体的に誰がどういう形で行うのか？

【農水省】

スギ花粉症緩和米のコメの部分は、独立行政法人農業生物資源研究所。そこが安定生産の技術や評価のための素材生産技術の研究を行う。また医療機関や大学と連携して、データをどうやって取っていくか、という検討を行う。それらの機関がコンソーシアムを組む。さらにコンソーシアムのメンバーと農水省が PMDA と相談しながら、研究開発を進めている。

【本庶議員】

連携する医療機関の具体名は？

【農水省】

スギ花粉症緩和米については、農業生物資源研究所のほか、栽培技術については日本製紙、コメの精米は(株)サタケ、医薬品としての検査は新日本科学、抗体技術についてはプリベンテック、その他、東京慈恵会医科大学、島根大学、東京都臨床医学総合研究所、国立病院機構相模原病院と組んで、5年間進めていく予定である。

【奥村議員】

課題1件当たりの予算額は？

【農水省】

このプロジェクトは5課題あるが、花粉症緩和米の課題(1件)には3億3千万円、医薬品農作物開発の課題に1課題5千万円、人工血管の課題には4千万円。

【奥村議員】

特定のシーズがありながら、「公募」している。農水省傘下の独法から出てきたシーズを実用化に向けて展開するために、広く知恵を集めるという意味で、公募という方式を取りながら本省の予算を使う、という理解でよろしいのか？

【農水省】

特にスギ花粉症緩和米については、農作物がそのまま医薬品になる、という初めての事例であり、国として、また農水省として、民間に受け渡せるまで責任を持ってデータを集めたい。そのシーズを生物研が持っているので、生物研中心のコンソーシアムを組むことになった。その他のアレルギー関係も他の農作物を使って出来ないか、ということを考えており、これに関しては、関係独法に限らず、幅広く、公募という形で大学等のシーズを集めたい。競争状況を作り出すためにも公募している。

【外部専門家】

花粉症緩和米について。薬あるいは減感作療法に替わるものであるので、患者に何食、どのくらいの期間、食べてもらうことを想定しているのか？

【農水省】

データを取りながら効能に応じた量を設定していくことになる。例として

は、一日1合程度を一定期間食していただくようなものになると思われる。

【本庶議員】

動物実験は完了したのか？それとも並行して行うのか？

【農水省】

マウスのデータは取っているが、審査時に抜けが無いように精査している。またヒトに近いという意味でサルデータの貴重であると考えており、実際に花粉症にかかったサルを確保して、今年度データを取ることにしている。ということで、動物実験は並行して行っていく。

【奥村議員】

参考までに伺いたいのだが、スギ花粉症の軽減という大きな目標に対する農水省の他の施策はどうなっているのか？

【農水省】

花粉をつけないスギに関する研究を進めている。このように木自体から花粉が飛ばないようにするというアプローチがある。もう一つは、今説明したように、ヒトの身体の内面から攻める、というアプローチがある。

以上